

## 未来の東京に向けた水辺整備のあり方検討会（第2回）議事要旨

日時：令和4年10月28日（金）10:00～12:00

主な意見は以下のとおり。

- ・歩きたくなるウォークアブルな水辺空間の創出に向けて、拠点から取組を進め、それを線で結んだうえで、まちづくりと連携していく必要がある。
- ・地域ニーズは各拠点で一律ではないため、地域ごとの特性を活かしていくべき。
- ・石神井川等の上流の支川でもまちづくりと連携した取組を展開しており、あり方にも位置付けられるとよい。
- ・取組メニュー等のアンケート結果を地域ごとに分けて分析することで地域ニーズの違いが分かるのではないか。
- ・車や船、シェアバイク等のアクセス方法が想像できるような取組があると良い。
- ・イベント時に河川敷地を駐車場にして、拠点まで船でつなぐ戦略も考えられる。
- ・照明やベンチ、テラスの連続性等のテラス利用者のニーズが大きい整備を基本としつつ、軸の連続性を確保しながら各地域に必要なものを誘導できると良い。
- ・歴史やストーリー性を踏まえることで、地域の個性が高まる。それを活かすことで、舟運事業等の活性化につながるのではないか。
- ・上流域のスーパー堤防等の堤防天端や法面は、もっと有効活用できる。
- ・水辺空間のデザインの観点から、人と川の距離に応じた手すりの配置や、水辺に親しめる照明の作りこみ等も検討するとよい。
- ・沿川の市民活動を把握し、その声を聞くことで、地域の意欲や特性に合わせた取組ができる。活動の核となる団体との連携が重要である。
- ・水辺や船着場等の利活用の手続きの仕組みをDX等で簡素化することはできないか。

- 船で移動し荒川のアウトドア環境を楽しむ等、舟運ネットワークによる利活用の拡がりがあるとよい。
- 江東内部河川等におけるカヌー等の水上アクティビティや、沿川の緑道による水と緑のネットワークとの連携も重要。
- 荒川や支川等との連携が必要であり、情報展開をどのように実施していくかも重要。
- 複数の管理者や多様な活動団体が、水辺を一層活用するために、申請方法を含めて行政等を横断的につなげていく取組が必要である。
- 今回の検討会のアウトプットをどのようにすると関係者が取組を進めやすいかを考えていく必要がある。